

富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメントに対する考え方

番号	大項目	ページ	関連項目	意見の概要	市の考え方
1	-	-		<p>子どもが、施設だけでなく地域の中で遊び育つ環境づくりの視点の強化を</p> <p>若生市長が2018年10月の「日本型子どもにやさしいまちモデル検証作業記念フォーラム」において語っていた「子ども時代の楽しい思い出があれば、育ったまちに対する愛着もわき、「ここで暮らし続けたい」という思いになる」という考え方に大いに共感します。地域愛の強い人に子ども時代の話をする、地域を縦横無尽に遊び、地域の自然・くらし・人とかかわった思い出の話をする方が少なくありません。</p> <p>本計画案に示された「楽しい思い出」をつくるための施策は、学校や諸施設で展開されるものが多いと思いますが、より地域の中で遊び育つ環境づくりの視点を強化することを提案します。</p>	<p>「楽しい思い出」は地域の中で育まれるものでもあることから、定期的に子どもにやさしいまちづくり推進庁内連携会議を開催しておりますので、その中で関係各課と連携しながら遊び育つ環境づくりについても展開してまいりたいと思います。</p> <p>また、地域の中で子どもたちが遊び育つ環境が提供されていくよう、様々な機会を捉えて周知していきます。</p>
2	第4章 子育てに関する施策の展開	53	基本目標3 未来の「とみや」を担う子どもたちの教育の充実したまち	<p>「幼児期の学校教育・保育の充実」では、遊びを通した学びの重要性記載を</p> <p>宮城県の策定する「学ぶ土台づくり推進計画」では「遊びや自然・人とかかわりを通して、豊かな心を育む」を掲げ、学校で「各教科等における学び」が重要になるのと同様、幼稚園等での「遊びを通した学び」が重要なことを指摘しています。</p> <p>本計画においても、こうした目指すべき姿についての記載を入れることを提案します。</p>	<p>「遊びを通した学び」も重要なことから、基本目標3未来の「とみや」を担う子どもたちの教育の充実したまちの説明文中に記載することといたします。</p>

富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメントに対する考え方

番号	大項目	ページ	関連項目	意見の概要	市の考え方
3	第4章 子育てに関する施策の展開	56	推進施策（5） 子どもたちのための環境と未来を考えるまち	<p>「子どもたちのための環境と未来を考えるまち」に地域にある屋外の遊び場づくりの取組みを</p> <p>推進施策（5）「子どもたちのための環境と未来を考えるまち」を考えるうえで、身近な暮らしの場である地域内に屋外の育ちの場をいかに創造できるかはとても重要です。ほんの数十年前までは地域のどこでも見られた子どもたちの遊ぶ姿が、今ではすっかり見られなくなったとも聞きます。本推進策に示される「子どもは、豊かな人間関係の中で健全に育成されるため、心身ともに健やかで社会性豊かな子どもに育てるため多様な体験をし、できるだけ多くの人とのかかわりを持つことができるような環境整備を行います。」という方向の実現のためにも、屋外の遊び場づくりの取組みの施策化を検討することを提案します。「日本型子どもにやさしいまちモデル検証作業」の中でも重要な視点になるのではないのでしょうか。</p>	<p>現在、屋外の遊び場としては都市公園の遊具等がありますが、改めて、上記意見1同様、子どもにやさしいまちづくり推進庁内連携会議及び推進施策（5）の事業担当課と協議し、施策化の検討をしてみたいと思います。</p>
4	第4章 子育てに関する施策の展開	35 59	基本目標4 子どもを支援する生活環境の整備されたまち	<p>子どもが遊び育つ身近な自然環境づくりを推進施策に</p> <p>富谷市は、近年大きく都市化が進んでいますが、自然を残しながらバランスよく開発されている地域も多く、都市と田園地帯を併せ持つことが子育て世代にとっても大きな魅力になると考えられます。</p> <p>基本目標4「子どもを支援する生活環境の整備されたまち」の考え方の中にも、みどり豊かな富谷市の環境の中で「子どもたちを健やかに育む」という発想があると思いますが、本計画案では施策として表現されていません。5つめの推進施策として、子どもが遊び育つ身近な自然環境づくりを位置付けることを提案します。</p>	<p>緑が豊かな自然は富谷市の特徴であることから、そういった自然を生かした子どもが遊び育つ環境についても、関係各課と連携しながら検討してみたいと思います。</p> <p>また、本計画における位置づけについても、検討してみたいと思います。</p>

富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメントに対する考え方

番号	大項目	ページ	関連項目	意見の概要	市の考え方
5	第4章 子育てに関する施策の展開	59	基本目標4 子どもを支援する生活環境の整備されたまち	<p>子どもを支援する生活環境の整備として、田園環境の活用も検討を「子どもを支援する生活環境の整備」のための施策の一つとして、市の管理する公園緑地をはじめ、田園地帯の環境（水路・田畑・空き地・雑木林等々）自体に注目した取り組みを行なうことを提案いたします。かつてのように、身近な地域が子どもを育む場になれば、子育て環境としてこれほど安心できるものはないと考えます。</p> <p>私有地にかかる取組みには制約・ルールもあると思いますが、これまで自然と伝わっていた、そうした場で遊ぶ上での「たしなみ」のようなものが、急速に失われつつあるようにも思います。田園環境の自然の中で遊んできた世代の方々が元気なうちに、どんなことをして遊んでいたか、その際に何を注意していたか（大人から注意されたか）、遊ぶ中で得られた経験は、…などを聞いておくだけでも、今後の「安心して遊べる場の確保」につながるヒントが得られるのではと思います。</p>	<p>上記意見1同様、関係各課と連携しながら遊び育つ環境づくりについても展開してまいりたいと思います。</p>
6	第4章 子育てに関する施策の展開	59	基本目標4 子どもを支援する生活環境の整備されたまち	<p>子どもへの影響評価の試行をユニセフ「子どもにやさしいまち」の基本構成項目のなかに、「子どもへの影響評価：子どもに関わる法律や施策、そして事業について実施前、実施中そして実施後に子どもへの影響を評価する制度化された手続きが保障されること。」があります。</p> <p>例えば「基本目標4 子どもを支援する生活環境の整備されたまち」の一環で取り組む施策として、道路・公園等の基盤施設の整備にあたっての子どもへの影響を評価する取り組みを試行することを提案します。</p> <p>例えば、田園の基盤整備にあたって水路が暗渠化され子どもが生き物と触れ合える環境が大きく損なわれるなど、大人の視点から抜け落ちているところで子どもの育ちの環境が大きく損なわれるケースも多々見られます。そうした点に光を当てることこそ、市が「日本型子どもにやさしいまち(CFC)モデル検証作業」に取り組む自治体となった大きな意義ではないかと考えます。</p>	<p>上記意見1同様、関係各課と連携しながら遊び育つ環境づくりについても展開してまいりたいと思います。</p>